

資料No.「業務1-7」

防災業務アプリケーションユニット標準仕様
防災情報共有
【インタフェース仕様】

V1.3

平成29年4月



一般財団法人全国地域情報化推進協会

目 次

本書の位置づけ	1
---------------	---

本資料の位置づけ

本書「防災業務アプリケーションユニット標準仕様 防災情報共有【インタフェース仕様】」は、業務ユニット間で連携するデータ項目と入出力を表したものである。同標準仕様「機能情報関連図(DFD)」(業務1-6)の階層1と対応している。

各業務ユニットは、本インタフェース仕様で規定されている他の業務ユニットとのデータ項目の連携を実現することが必要である。

<<準拠ルール>>

- : 各業務ユニットは、利用側業務ユニットに対し、本インタフェース仕様で規定されているデータ項目(オンライン連携、バッチ連携問わず)を提供できること。
(必須) [1.7]

- : 防災情報共有ユニットは、防災情報共有ユニット同士でデータを交換するものとしており(詳細は業務ユニット概要の7ページ参照)、インターフェースとして送受信するデータは、防災情報共有ユニットのデータ一覧で定義している「全てのデータがインプットおよびアウトプットの対象」となる

- : 防災情報共有ユニットは、防災情報システムに内包される機能として実装されるケースが想定される

- : 防災情報システムの避難者管理機能等において、自治体業務アプリケーションユニット標準仕様で定義されているユニットである住民基本台帳ユニットから住民情報を利用して避難者リストを作成する等の利用方法があるが、これらの機能を実装する場合は、住民基本台帳ユニットで規定されるインターフェース仕様書を参照のこと。

